

活動レポート

地域産業研究会

文責：地域産業研究会幹事 板垣恒夫

島牧村「森・川・海づくり」植樹会に参加して

1. はじめに

北限域ブナ林は黒松内町・島牧村・寿都町の南後志3町村に分布しており、この地域のブナ林研究を進めながら将来的に世界遺産(複合遺産)へと育てようという構想がある(北海道新聞 2009・3・6)。今回植樹会の行われる島牧村には狩場山の裾野に全国一といわれる10,700haのブナ原生林が広がっている。

技術士会の地域産業研究会では、昨年9月11日～12日に南後志3町村のブナ林見学会と情報交換会を実施した。技術士会員12名、3町村、後志森林管理署、北海道大学などから28名、計40名の参加者があった。意見交換の中では、技術士(会)に対し、3町村共に地域活性化への支援を期待しており、島牧村では、地域資源(ブナ林や文化遺産)の保全と活用に対する客観的な検討を期待する声があった。また、村民の中に「島牧で楽しむ会」など活性化に向けて活動している団体があることも分かった。地域産業研究会としての植樹会への参加はこのような経緯の中で行われた。

2. 植樹会の案内

5月17日付けで島牧村藤澤克村長から「森・川・海づくり」植樹会(6月16日(水) 10時～賀老



図-1 植樹会場周辺(緑：国有林)

高原キャンプ場)」の案内があり、技術士会から板垣と岩村俊二技術士夫婦の3名が参加した。

3. 植樹会会場(賀老高原)周辺の森林

島牧村(43,700ha)の狩場山(標高1,520m)自然休養林と大平山(標高1,191m)植物群落保護林は価値ある自然として大切に扱われている。このような地域はいわゆる「生物多様性」の観点からも貴重な自然で、これらの多様性の維持には天然林が広く分布していることが条件であり、狩場山山系一帯の自然はその意味でも貴重な地域と言える。

植樹会々場の賀老高原は東狩場山の裾野に広がる標高300m～500mの高原台地でブナ林を中心とした広葉樹林で被われている。下層植生はおおむねナガバネマガリダケ(通称：チシマザサ)で、この時期にはタケノコ採りで賑わっている。近くにはブナ原生林に囲まれた「賀老の滝」が瀑布を落としておりその景観に圧倒される。

4. 小学生も参加の植樹会

豊かな森林づくりのための取り組みとして平成19年から開催の植樹会は今年で4回目である。今回の参加者は54名で、島牧村役場関係以外では、後志森林管理署(木谷署長他2名)、後志総合振興局(山田主幹他3名)、南後志森林組合、技術士会地域産業研究会、黒松内岳ブナ再生プロジェクト、島牧漁業共同組合、島牧小学校、島牧で楽しむ会、島牧慈光園、等からだった。

16日の天候は午前中曇、午後は雨との予報で、札幌から参加の私達は、雨具や長靴・スコップを積み込み午前5時40分に岩村宅出発、途中で板垣が合流し、小樽・岩内経由で現地へ向かった。途中で

は雨の降る地域などもあり、植樹会時間帯に雨の降らないことを祈りながら車を走らせた。予定より少し早く、賀老高原キャンプ場の駐車場に着いた午前9時過ぎ、現地は霧雨模様、役場の準備班が到着し苗木の搬入や植穴掘を始めた。

駐車場に4人連れの主婦達がいたので声をかけると、彼女達は長万部町からきた「タケノコ採集組」で、札幌では1本50円～100円程度のタケノコをリュック一杯にして帰って行った。

9時40分過ぎには植樹会参加者が続々到着し始め、私達も植穴掘りなどの準備に参加した。植樹会場は、キャンプ場北側(標高500m)の並びで、場所によっては堅い土壌が続く、岩村技術士ご夫婦も大健闘だった。

10時には山田産業課長の司会で植樹会が開始された。藤澤村長のご挨拶があり、次に後志総合振興局の空 則明林務課主幹による小学生(島牧小学校3年生11名)への植樹指導があった。



写真-1 ご挨拶の 藤澤 克 村長



写真-2 植樹指導風景(空 則明 林務主幹)

準備された苗木はポット苗として育てられたミズナラ100本、ブナ山取苗100本で、植樹会は10時～12時まで掛かった。曇天の霧雨模様で、雨具は必需品だったが、蒸し暑さもあって汗だくになった。小学生は大人と一緒にミズナラを指導通り丁寧に植樹していたが、大人はどうだったか？植樹の植穴は大きめ・深めが大事で、底に柔らかい土を敷き、その上に苗木の根がまんべんなく広がるようにし、幹を真っ直ぐ立てて、まわりの土を埋め戻し、軽く周囲を踏み固めて完了する。苗木には赤テープが巻き付けられており、植樹位置の確認にも役立てられる。

5. おわりに

植樹会の終了する頃から、恵みの雨がやってきた。植栽木の根張りを確実にするためには水分補給が大事で、しかも天然の雨。この植樹会の成功を確信すると共に、来年の確認が楽しみになった。

最後に、記念写真撮影ですが、植樹風景写真とともに意義ある植樹会を感じて下さい。藤澤村長さんからの感謝の言葉を戴き、私達は次の予定地(「賀老の滝」見学)に出掛けた。雨ですっかり濡れてしまったが、この時期の北海道深山の雰囲気味わうことのできた植樹会だった。

島牧村の地域活性化への取り組みとして、村の小さな行事を通じ、お互いが知り合うことをスタートに考え植樹会に参加した。地域には豊かな自然資源や文化が多く存在する。島牧村の人々がそのことに気付くことができれば地域活性化の芽が伸びる。私達技術士(会)にそのお手伝いができればと思った。



写真-3 「森・川・海づくり」植樹会
(2010・6・16)